2026_0211「ポルユス駅、恒星と惑星の停車リクエスト」日々の理科 4203 号

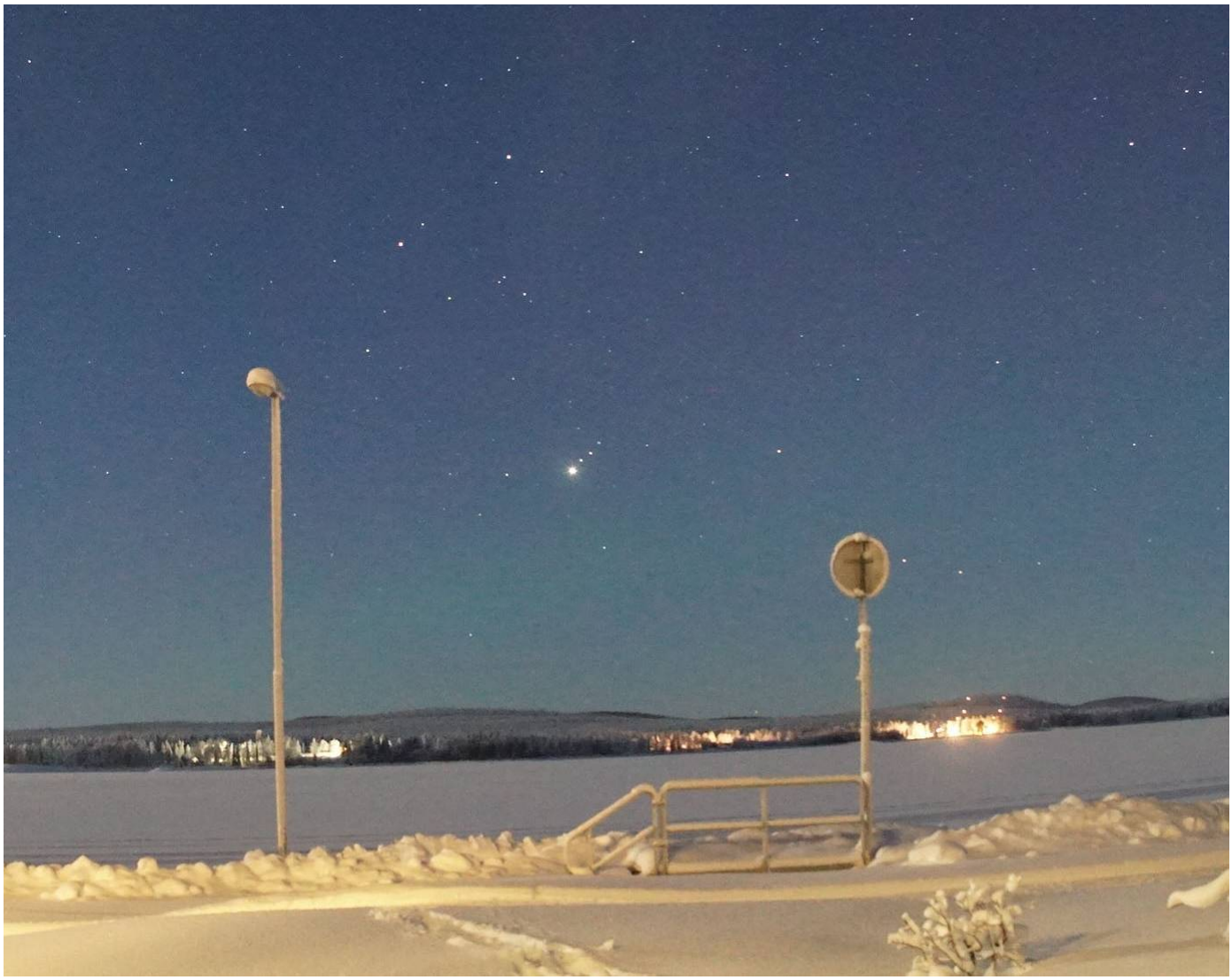
お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

北極圏の凍てついた湖を越して見上げた、静寂そのものの星空です。地平線近くまで雪と氷に覆われ、湖面は黒い鏡のように空を受け止めています。冬の北極圏では空気が澄みきっているため、星の光が驚くほど鋭く感じられます。

湖の上には、ふたご座が斜めに横たわるように写っています。左下に見える明るい星が弟のポルックス、右上が兄のカストルです。ポルックスは一等星、カストルは二等星ですが、この写真ではほとんど同じ明るさに見え、双子の名にふさわしい並びです。

中央でひときわ強く輝いているのは木星です。ふたご座は黄道十二星座の一つなので、太陽も惑星もこの領域に位置することがあり、今夜は木星がまさにその中で存在感を放っています。木星の右上に小さな星が三つ並んで見えます。最初はガリレオ衛星かと思われますが、位置関係が一致しません。これは撮影地点の室内窓、二重ガラスによって生じた木星の反射像です。北極圏の観測では、こうした光学的な偶然もまた写真に物語を加えます。

手前の柵はポルユス駅の小さなプラットホーム。丸い標識は列車の停車をリクエストするサインです。人の気配がほとんど消えた雪原に、宇宙の星々だけが確かに輝いています。

（2026 年 2 月上旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）